



連  
款  
秘  
傳  
抄

伊地知文庫  
文庫20  
180



わがしゝわん海ぞかり

つゝこのうらたのわん海

移るわん海のわん海

けるわん海のわん海

まわりのわん海

まわりのわん海

まわりのわん海

石をうごかすわん海

地火水風にうごかすわん海

心敬神也

わん海のわん海

是は法也

わん海のわん海



柳連歌ト云者奇之難辨之類也  
 一字之是は仏に世二相シ表メ世一字  
 奇ク一辨シ合テ三三相ト成リ又ホ八宿  
 日月星ノ三ッ相テ世一字ト成ル内  
 シ五句分テ是列 地水火風空ノ  
 五又仁義礼智信之五常ノ別言  
 佛一代五可ノ説シ明ゼリ以奇シ  
 ニ分テ連テ下成ル人奇ニ生佛表分  
 之義分テ連歌ト成時去生仏  
 一辨ノ所ヨリ仏性ト成生ト合分  
 タル義之世外奇ニ連歌ノ功徳教  
 シ不念離世トは抄ニ細ニ及返新

連テシ物人不知ニ世中内説  
 叶不窮ニ得道ニ至ト云是之言也  
 連テテ十世見テリ毒之人必何  
 以道シ下トスヘシ  
 一連歌ハ合テ辨トリ奇ニ依有ニ儀  
 連テテ六辨之類也付物類之  
 依有品ハ辨十辨十六辨廿二辨  
 以十八辨二十辨ヲ以セリ必シ淫之  
 教及八辨ノ所要トセリ八辨ト云  
 平付四平付風信付詞付  
 遠付四付 如射付 埋付  
 世八辨也

一平付ト云ハ山等浦ニ舟賦ニ  
平付ト云ハリ

月廿二日ト云ハ山等の湯

ニ云ハト云ハ山等の湯

二平付ト云ハ山等の湯

調毎ニ毛風行リ付ル

此等ノ事ハ山等の湯

揚クノ事ニ思ヒテ山等の湯

三風候付ト云ハ山等の湯

付候ノ事ハ山等の湯

アツク付ル

若クハ山等の湯

又云ハ山等の湯

一調付ト云ハ山等の湯

ツ付方ト云ハ山等の湯

此等ノ事ハ山等の湯

又云ハ山等の湯

二遠付ト云ハ山等の湯

ツ付ツスリ

此等ノ事ハ山等の湯

又云ハ山等の湯

六平付ト云ハ山等の湯

此等ノ事ハ山等の湯

七柳對付とい田下云。烟下付松

竹といひ

鳥のこまをかくる細

打ふとも小田共人のひらりも悉摺

八埋付とらふまは竹の移をてふこみ

海さのこはらるり

鷹狩くわのこまをかくる

松と竹の増平の言をかくる

そととみりては増平の松といふ

庭より

世の事といふ辭をかくるは鷹狩の松

廿八

一中右といは八折といふ階下てみ

とらふのつちをかくるは鷹狩の松

上代に竹を良の松といふは鷹狩

て五人計といふは鷹狩の松

の人といふは鷹狩の松

竹の松といふは鷹狩の松

は鷹狩の松といふは鷹狩の松

首のこまをかくるは鷹狩の松

宗初世といふは鷹狩の松

のこまをかくるは鷹狩の松

一ちみといは鷹狩の松

鷹狩の松といふは鷹狩の松

鷹狩の松といふは鷹狩の松

鷹狩の松といふは鷹狩の松

一こまきり祠

ておらむーきりきり  
地をなぬわ

一としてるおのてよとんれあく

いまこちにおかき推しん

山陰と林のさそふあきさてゆき

こころをうせむかむん

わらわらあつしゆのあつせあき

雲らとけいさきまきり

山の湯のぬるあまきりあき

かこまふくさるいりあき

あまの橋袂のあまきりあき

けりこのまきりあきと云ふ

山陰と林のさそふあきと云ふ

あつしゆのあつせあきと云ふ

あまの湯のぬるあまきりあき

あまの橋袂のあまきりあき

まらあまきりあき

命とまきりあき

せんあまきりあき

あつしゆのあつせあき

そのあまきりあき

花の香い昔の人のあまきりあき

昔もこゝの星りぬらん

本の時よこしや抱ちたきむらに花見さむ

懐くもやしをぬらん人

山標志をえん向くま出さむるを

そゝれこゝろ世ののき

世際神のついで月と見え

世際神の白前もそゝれとく

より下知のやとて帯り付こし

とゝれはさきりくらに能く

一升とるむけり柳をこゝろのこゝ

とゝれをけりてせしや

はらけりぬらん花のよゝめ

とゝれをけりてせしや

とゝれをけりてせしや

とゝれをけりてせしや

とゝれをけりてせしや

とゝれをけりてせしや

とゝれをけりてせしや

とゝれをけりてせしや

とゝれをけりてせしや

とゝれをけりてせしや

とゝれをけりてせしや

とゝれをけりてせしや

とゝれをけりてせしや

花らんとけりてせしや

いんごのめいけいの世のらん  
ねとりのりらりかを繋ぎの家細  
木すきりしんまかたのなるい  
ねとを花のこころのまねり  
その皆遠村のめいけい  
一えんとあそびの事ちのりらん  
こころのいりけいこころのりてん  
けいこころえんこころのりあ  
白のしはとすくこといんごの  
白みけりて

山すきりめいけいの  
いんごの勝れ月やあらん  
こころのりらりかを繋ぎの家細  
ねとりのりらりかを繋ぎの家細

いんごのめいけいの世のらん  
ねとりのりらりかを繋ぎの家細  
木すきりしんまかたのなるい  
ねとを花のこころのまねり  
その皆遠村のめいけい  
一えんとあそびの事ちのりらん  
こころのいりけいこころのりてん  
けいこころえんこころのりあ  
白のしはとすくこといんごの  
白みけりて

いんごのめいけいの世のらん  
ねとりのりらりかを繋ぎの家細  
木すきりしんまかたのなるい  
ねとを花のこころのまねり  
その皆遠村のめいけい  
一えんとあそびの事ちのりらん  
こころのいりけいこころのりてん  
けいこころえんこころのりあ  
白のしはとすくこといんごの  
白みけりて



一 一也當て付柳をくついでんきて  
分りて亦とくなり

飛つりりてはうらとて

月を事と社とを長と事とに字細

お、家しくとまをさかん

おらくの事にあたり年に出る

麻の書、をわのりて存

格との端まをわのりて存

老のいのら此現るん程

ふふすたあむむとと事(は)長

一 當りて當て付柳をくついでんきて

ふふすたあむむとと事(は)長

たの事と社とを長と事とに字細

おらくの事にあたり年に出る

麻の書、をわのりて存

格との端まをわのりて存

一 當りて當て付柳をくついでんきて

ふふすたあむむとと事(は)長

たの事と社とを長と事とに字細

おらくの事にあたり年に出る

一 也とて當て付柳をくついでんきて

ちういふわとてくついでんきて

能はくさうん下取の地このよと事細

付回春付とさう月の付とて事細

たりて當て付とて事細

か別とて事細

ついでとていふは武蔵

の世に初めはあつた地は

あつた地のまゝのりし

あつた月交さしては地は

業の月交さしては地は

地は月交さしては地は

その皆同じの地とて

あつたさつりしては地は

あつた地はあつた地は

あつた地はあつた地は

あつた地はあつた地は

あつた地はあつた地は

あつた地はあつた地は

あつた地はあつた地は

あつた地はあつた地は

あつた地はあつた地は

あつた地はあつた地は

あつた地はあつた地は

あつた地はあつた地は

あつた地はあつた地は

あつた地はあつた地は

あつた地はあつた地は

あつた地はあつた地は

あつた地はあつた地は

あつた地はあつた地は

あつた地はあつた地は

あつた地はあつた地は

この園のまはりのまはりの

月の名はつづく川の橋頭まはりの

いづれにけりかくてまはりのまはりの

まはりの字にまはりまはりのまはりの

まはりのまはりのまはりのまはりの

まはりのまはりのまはりのまはりの

まはりのまはりのまはりのまはりの

まはりのまはりのまはりのまはりの

神を木のまはりのまはりの

まはりのまはりのまはりのまはりの

まはりのまはりのまはりのまはりの

まはりのまはりのまはりのまはりの

まはりのまはりのまはりのまはりの

まはりのまはりのまはりのまはりの

まはりのまはりのまはりのまはりの

まはりのまはりのまはりのまはりの

まはりのまはりのまはりのまはりの

まはりのまはりのまはりのまはりの

まはりのまはりのまはりのまはりの

まはりのまはりのまはりのまはりの

まはりのまはりのまはりのまはりの

まはりのまはりのまはりのまはりの

まはりのまはりのまはりのまはりの

まはりのまはりのまはりのまはりの

まはりのまはりのまはりのまはりの

まはりのまはりのまはりのまはりの

まはりのまはりのまはりのまはりの

おぼろしくはにちて付するおぼろしく  
手付く

廿九の月夜をきいてあつ

嗚ちせは程をまけまはるる

ふとる一本此物なるを

おぼろしくの夜に交るに字

半のわくさあを

おぼろしく書に難あて月

おぼろしくはにちて廿九の月夜と

てまておぼろしくとまて

とちて付されり又おぼろしく一本の物

おぼろしくはにちて廿九の月夜とちて

おぼろしくはにちて廿九の月夜と

おぼろしくはにちて廿九の月夜と

おぼろしくはにちて廿九の月夜と

おぼろしくはにちて廿九の月夜と

おぼろしくはにちて廿九の月夜と

おぼろしくはにちて廿九の月夜と

おぼろしくはにちて廿九の月夜と

おぼろしくはにちて廿九の月夜と

おぼろしくはにちて廿九の月夜と

おぼろしくはにちて廿九の月夜と

おぼろしくはにちて廿九の月夜と

おぼろしくはにちて廿九の月夜と

おぼろしくはにちて廿九の月夜と

春にゆく洞と暮れしけり  
子とあけいとあけふりに山と  
心と遠そけしけり

きのねの月かきこは

ねとよく風のそはは

らうしうは

月か けらう末の木のち

そにけうらう年付のい

ととていくの付れあは

わうまの神を

あう月し

あうの風は

花ちり

そにう

あう月も

あうのらう

花地

林も

病に

あう

あう

あう

あう

あう

あう

あう

さし書は此の道にあら  
山のわくすもよとよ月夜  
くらきくしむける方は  
清きつらむ之をみるん  
そん方云はしりて  
きりくよあつら  
林のく大野か山風を  
古河より村の山を  
入はる田の林を  
月にさりくは  
そん云はしりて  
けくそんよのそん  
一と云ておこの

さし書は此の道にあら  
山のわくすもよとよ月夜  
くらきくしむける方は  
清きつらむ之をみるん  
そん方云はしりて  
きりくよあつら  
林のく大野か山風を  
古河より村の山を  
入はる田の林を  
月にさりくは  
そん云はしりて  
けくそんよのそん  
一と云ておこの

山寺のその境に  
又さし書は此の道にあら

又神あつしを宮の若川

らやよりの暮の守心こころをえは

みわ今心のたくとりらん

月こやほあつちの都え月

みこもつちあひのこころよその境也

けれ方に入ん みるる境のましく味なり

とていふまゝ ひとまゝこころをえり

又そわを宮の若川とてこころをえり

中山越えそとをえりあるの若川

とて又神あつしを

こころをえりよけれそら若川をえり

あつちあつち月こころ

雲よりのおまの境のわが宮をえり

田舎のこころわん月をえり

あつちあつち月をえり

こころをえりよけれそら若川をえり

あつちあつち月をえり

あつちあつち月をえり

あつちあつち月をえり

あつちあつち月をえり

あつちあつち月をえり

あつちあつち月をえり

あつちあつち月をえり

あつちあつち月をえり

あつちあつち月をえり

あつちあつち月をえり

あつちあつち月をえり

あつちあつち月をえり

あつちあつち月をえり

あつちあつち月をえり

あつちあつち月をえり

あつちあつち月をえり

あつちあつち月をえり

古くよりある着せ

まろくはうへりきりりの一色花

一様ひてまろくはうへり

ひのさきけりすまてふ

け里の花地ふりけり花を

うらなうりけり花を

山ありまはまはりけり花を

こいたる里とゆきま

ひせま花のりこの花を

秘さりの月の出を

後くそりてり花の命

ひりきりけり花を

ひりきりけり花を

ひりきりけり花を

ひりきりけり花を

ひりきりけり花を

ひりきりけり花を

ひりきりけり花を

ひりきりけり花を

ひりきりけり花を

ひりきりけり花を

ひりきりけり花を

ひりきりけり花を

ひりきりけり花を

ひりきりけり花を

ひりきりけり花を

ひりきりけり花を

ひりきりけり花を

ひりきりけり花を

ひりきりけり花を

ひりきりけり花を



云らに風あふ山松のこころなかり山松  
の根のまはるく人のこころなかり  
うつくしき

一 又ささくら

あはれなれはきぬかた

あはれなれはきぬかた

一 さらりと

風くさかり

雲をゆく木めはなれ

水あはれをきき

さらりあはれ

一 又ささくら

あはれなれはきぬかた

一 さらりと

あはれなれはきぬかた

さらりのあはれはきぬかた

さらりなれはきぬかた

さらりなれはきぬかた

さらりなれはきぬかた

一 さらりと

さらりなれはきぬかた

さらりなれはきぬかた

一 さらりと

さらりなれはきぬかた

さらりなれはきぬかた

一 さらりと

さらりなれはきぬかた

一 さらりと

さらりなれはきぬかた

さらりなれはきぬかた

一 さらりと

さらりなれはきぬかた

一 山

車のこゝろにありて  
山に雲の影をうつし  
山に雲の影をうつし

一 山

山に雲の影をうつし  
山に雲の影をうつし  
山に雲の影をうつし

一 山

山に雲の影をうつし  
山に雲の影をうつし  
山に雲の影をうつし

一 山

山に雲の影をうつし  
山に雲の影をうつし  
山に雲の影をうつし

一 山

山に雲の影をうつし  
山に雲の影をうつし  
山に雲の影をうつし

一 山

山に雲の影をうつし  
山に雲の影をうつし  
山に雲の影をうつし

一 山

山に雲の影をうつし  
山に雲の影をうつし  
山に雲の影をうつし

